

上賀茂の伝統文化 ～ 伝統の再構築と地域の活性化に向けて～

責任者 榊原 諭

企画概要 社家町に伝わる文化や神社の年中行事に代表される上賀茂の伝統文化を広く人々に知ってもらい、上賀茂地域の文化保全・継承とその発展に貢献しようとするものである。見学会や実演会、シンポジウムの開催などを計画。

結果報告 1. 小池の日本泳法実演会について

予定日時:平成 15 年 6 月中旬～7月上旬

開催日時:平成 15 年 6 月 24 日(火) 午後 1:30～3:00

予定場所:上賀茂、柊野、待鳳の三つの小学校のプール

開催場所:柊野小学校プール

日本に古来より伝わる、日本泳法を実際に見てもらい、伝統文化の保存、発展を促し、日本泳法の根底にある昔の人の考え方を知ってもらうことによって、子供たちの人格形成を補助することを目的としたイベントでした。

上賀茂遊泳術講習所の方をお招きし、実演をしていただくと共に、柊野小学校の五、六年生約 90 人が参加し、実際に泳ぎに挑戦しました。また、このときに京都新聞から取材を受け、翌日の新聞に記事が掲載されました。上賀茂、待鳳の両校は日程が合わず、開催することが出来ませんでした。

2. 小学生向け見学会について

予定日時:平成 15 年 6 月 29 日(日) 午前 9:00～11:00

開催日時:予定通りに開催

予定場所:上賀茂伝統的建造物群保存地区

開催場所:予定通りの場所で開催

上賀茂の文化に早いうちから触れてもらうことによって、上賀茂文化に対する興味と伝統文化の継承者としての自覚を持ってもらい、将来の伝統文化継承者を育成することを目的として開催しました。

上賀茂小学校の「上賀茂探検クラブ」から、小学生が 18 人、引率者(大人)が 6 人だったため二つのグループに分かれ、以下のように 5 軒の社家を見学してもらい、実際にお住まいになっている方からお話をしていただくなどしました。

京都、読売、毎日の翌日の新聞に、記事が掲載されました。

1 班(担当 榊原) 6 年生 8 名 大人 3 名

2 班(担当 清水、松澤) 5 年生 6 名、中学生 4 名、大人 3 名。

9:00 上賀茂小学校ふれあいサロン集合

挨拶、行き先の簡単な説明

9:20 移動

池田家の前で簡単な説明。

西村家見学

10:00 班に分かれて移動



- 1班 萬徳家見学
- 2班 浦野家見学
- 10:15 昔の道を通って移動
- 1班 井関家見学
- 2班 梅辻家見学
- アンケートの回収後、解散



3. 火星大接近観測会について

予定日時:平成 15 年 8 月 21 日(木) 午後 7:30 ~ 11:00

開催日時:時間のみ午後 8:00 ~ 11:30 に変更

予定場所:上賀茂小学校グラウンド

開催場所:上賀茂小学校体育館およびグラウンド

火星をテーマに、社家周辺に住んでおられる方同士の交流を深めてもらい、上賀茂文化の保存、研究をより充実させてもらうために企画しました。

上賀茂小学校に参加者募集のプリントの配布をしてもらったところ、228 人の参加者が集まりました。地元在住で大阪経済大学教授の梅辻諄先生に、体育館内で講演を行っていただき、その後実際に望遠鏡で参加者に観察をしてもらいました。当日は曇りだったために、火星が観察できたのは短い時間でしたが、普段できない貴重な体験ができたと思っておりました。





4. について

予定日時:平成 15 年 10 月 25 日

開催日時:平成 15 年 10 月 25 日 午後 1:30 ~ 4:30

予定場所:京都産業大学神山ホール

開催場所:予定通りの場所で開催

上賀茂の文化の保全、継承のために討論を行い、将来にわたる上賀茂地域の環境保全、そして上賀茂地域に産大生が貢献することを目的とし、立案、開催しました。

当日は以下のような流れで行い、参加者は 366 人でした。

(1) 講演、および実演

御棚会神事と賀茂六郷

上賀茂の競馬会

上賀茂やすらい花の実演

やすらい花の講演

上賀茂やすらい花の実演

(2) パネルディスカッション

当初予定していた内容と少し変更はあったものの、シンポジウムの 1 番の見せ場であるやすらい花の実演が叶ったことが、参加者 366 人という素晴らしい結果につながったと思います。

当日は 50 歳以上の方が多く、やはり、やすらい花の実演が好評でした。参加者の中には何十年も上賀茂に住んでいてもその歴史や文化についてよく知らなかったという方が少なくなかったため、改めてこのようなシンポジウムの必要性を感じました。また、時間が足りなかった、もっと話が聞きたかったという方も多く、ほとんどの方が次回も参加したいとおっしゃってくれました。

翌日の毎日、京都新聞に記事が掲載されました。

5. 梅辻家(社家)の特別公開について

予定日時:平成 15 年 11 月 15 日

開催日時:平成 15 年 11 月 15 日 午前 10:00 ~ 午後 4:00

開催場所:梅辻家(上賀茂神社から藤の木通りを東へ徒歩 5 分)

一般の人に上賀茂の伝統文化である社家、そして京都御所の語学問所を移築したといわれている書院がある梅辻家を実際に見学してもらうことで、その他さまざまな上賀茂

独自の文化への興味を持ってもらい、上賀茂地域の文化保存の手助けをすることを目的に行いました。

当日は雨が心配される天候でしたが、何とか降らずに公開を終えることができてよかったです。公開に訪れた方は133人で、10月に行ったシンポジウムでの梅辻先生のご講演と、梅辻家公開の紹介の効果が大きかったと思われます。

公開は午前10時から始まり、訪問者が次々に訪れ途切れることがありませんでした。訪問者が数人集まったらゼミ生が説明をするという形で進め、今回の大きな見せ所は江戸時代の僧契沖の直筆の三十六歌仙の額の展示でした。

訪問者の中には昔から上賀茂にお住まいで歴史に詳しい方も多くいらっしゃったので、我々の方が逆に教えていただくという場面もあり、地域の人と触れ合うことで色々なことを学ぶことができました。

当日の京都新聞の夕刊の一面に記事が掲載されました。

感想 ほぼ一年間、長いようで短かったこの活動も終わりました。

最終的に、この活動で行ったイベントに参加してもらい、動かすことが出来た人の数は約800人、動いたお金は50万円という、私がこれまで運営などの深い所に関してきたイベントの中では、一番規模の大きなものとなりました。それも、参加者は全員が完全に善意で参加しています。強制や金銭等の、言い方は悪いですが「餌」でなく、好意や興味でこれだけのお金が動き、人が動いてくれました。このことは、国、町、村など、どれだけ小さな共同体であろうと、そのものが持つ固有の習慣や文化がとても大切なものであることを示しています。

日本は早い段階から、これらの伝統など、古いものを破壊することに苦心してきました。それは外的要因、内的要因、さまざまな環境があり、それらが思いもよらない作用を及ぼすことで、作られてきた流れです。ですが、近年はそれらの破壊されてしまった、あるいは破壊されつつあるものに目を向けようとする動きが活発になっています。古い伝統や慣習が如何に重要な意味を持っているか、研究や資料収集などの地道な活動によって明らかになってきたからです。そして今、伝統的なものを破壊し、近代化のためにそれらを捨ててしまおうという流れが世界中を覆っています。それは東南アジア諸国経済が工業を中心とするものに変動していく過程であり、アフリカの土着の人々が生活様式を近代的なものへ変化させようとする動きであり、世界経済のグローバル化でもあります。

初代総長、荒木先生の建学の精神には「全人類の平和と幸福のために寄与する精神を持った日本人、それは日本古来の美しい道徳的伝統を精神的基盤とし(後略)」とあります。古い伝統文化、生活習慣は祖父、曾祖父の代がその前の代から熟考され、長く受け継がれてきた大切なものであり、それを金銭等の単純な秤で安易に破壊してしまうこと、それは間違っています。受け継がれた自然環境を破壊し、今そのツケが回っていることを見れば、それは火を見るより明らかなはずですが、それが世界全体の大きな流れであり、それに抗うことが無駄なことであるとしても、私は古き物を守り、伝えていくことが正しい道であるという確信を、この活動を通じて得ることが出来ました。この活動は、私のこれからの人生をとてても豊かなものにしてくれると思います。有難うございました。